

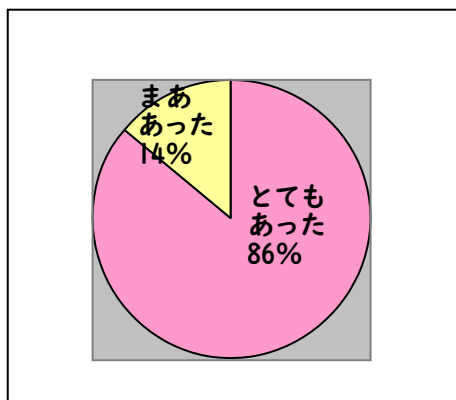
幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ

鶴見小学校の皆様・嶋野道弘先生、ありがとうございました。

令和4年4月22日(金)に第1回接続期研修会スタートカリキュラム授業研究会が鶴見小学校で開催されました。今回は、研修会参加者からの感想・ご意見の一部を紹介します。

◀ 日頃の業務に生かせる気付きや学びがありましたか? ▶



参加されたみなさんが、気付きや学びを得ることができるすてきな研修会になりました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、鶴見小学校の学校体制や環境、職員の関わり、子どもの姿、嶋野先生のご講演、活発な討議等、どの場面からも多くの気付きや学びがある充実した研究会になりました。「園・校に戻ってからが研修の本番」です。本研修での気付きや学びを、それぞれの園や学校でぜひ生かしてください。



◀ 鶴見小学校の実践から〜〜〜どのような気付きや学びがありましたか?〜〜〜 ▶

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにすることによって、子どもの姿をよく見ることができ、他の職員(小学校の先生も)とも共有しやすくなるのではないかと思います。
- 「就学までに、きちんとできる子にしないで!」というプレッシャーを感じることもありましたが、そうではないことを心にとめ、子どもにゆったりと関わり、よく観察し、感性豊かに資質・能力を意識して保育していきたいと思いました。
- 教職員の方が要録を活用していることを実際に聞くことができ、とても嬉しく思いました。これからもより一層丁寧に書いていこうと思いました。



◀ 嶋野道弘先生の講演から～～どのような気づきや学びがありましたか？～～ ▶

- 「親切にするのが支援ではない。その子にとって意味があったか、役に立っているかが重要である。」ということがわかりました。
- 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は目標ではなく、「**見ただけではわかりにくいこと**」を見るための**ポイント**であるということを改めて学びました。「**幼児期に育ってほしい姿**」を教え込むのではなく、遊びや生活の中で自然に育っていくようにし、「**子どもを見る視点**」として保育の中に取り入れようと思いました。
- 接続期の環境構成**として、**時間・空間・人間**がとても大切で**6つの観点**（安心感・方向性・力を入れるポイント・工夫・具体・個別のトラブル）で適切な支援が必要だということがわかりました。

◀ 課題に感じています～～～保護者への周知・職員への意識づけと浸透～～～ ▶

- 幼保小の連携はとてもよく実践されているのですが、それを保護者に理解されていないのがもったいないと感じています。鶴見小学校のように接続期を大事にされているという実践があるので、本園で行う就学時懇談会ではこのようなカリキュラムがあることを保護者にも発信していこうと思っています。
- 日頃の保育の中で大切にしてほしいと思い職員に伝えていることではありますが、なかなか浸透していかない点もあり難しさを感じています。今回の研修内容を活用しながら、日々の保育の中で実践できるよう意識づけしていきたいと思っています。

園や学校で先生方が頑張っていらっしゃることを、こども青少年局が意味づけたり価値づけたりして、できるだけ多くの園や学校で取り組みやすいようにしていくこと、園や学校が取り組んでいることの価値を市民（特に保護者）に広めていくことが大事だと思っています。子どもたちの安心と笑顔につながるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やスタートカリキュラム等の内容を改めて可視化して共有するなどの連携を図り、幼保小の円滑な接続を図るようにつとめていきたいと思っています。